

# 学士課程における助産師教育課程 年次報告書

千里金蘭大学学士課程における助産師教育課程

令和 6年 6月

千里金蘭大学

## 1. 設置者

学校法人金蘭会学園

## 2. 教育上の基本組織

- 1) 名称 千里金蘭大学
- 2) 所在地 大阪府吹田市藤白台5丁目25番地1号
- 3) 学士課程における助産師教育課程名 千里金蘭大学看護学部看護学科
- 4) 委員会等 (資料1:組織図)  
大学協議会、企画・調整委員会、大学院研究科委員会、教授会、人事委員会、アドミッション委員会、大学入学共通テスト委員会、研究推進・社会連携センター委員会、広報委員会、人権委員会、人を対象とする研究倫理審査委員会、個人情報保護委員会、自己点検・評価委員会、FD委員会、教務委員会、学生委員会、図書委員会、情報委員会、就職支援委員会、IR推進室会議、教養教育運営審議会、衛生委員会、国際交流部会、大学改革(教員養成)検討委員会、教職支援センター会議、病原体等安全管理委員会、後援会
- 5) 学長・学部長等及び助産師教育課程責任者名  
学長 福畠 教偉  
看護学部長 藤田 俱子  
看護学科長 笹本 美佐  
助産師教育課程責任者 上山 直美

## 3. 教員組織(様式3の表13、表14を添付。表は令和5年5月1日現在)

教員数 専任教員6名(教授1名、准教授2名、助教3名。うち母性看護学との兼担2名)

非常勤教員2名

## 4. 収容定員及び在籍者数(様式3の表8、表9、表10を添付 表のNは令和5年度)

収容定員 14名

在籍者数 13名(3年次7名 4年次6名)

令和5年度の履修取り消し者は1名であった。また令和6年度3月に実施した選抜試験の受験者は12名(競争率1.7倍)であった。

## 5. 入学者選抜

## 1) アドミッション・ポリシー

①助産師を志す明確な意志を有している人。

- ②助産学を学ぶ上で必要な基礎学力と、看護学の基本的知識を備えている人。
- ③協調性があり、他者とコミュニケーションがとれる人。
- ④豊かな人間性と、看護を基盤とした倫理観を有している人。
- ⑤社会に対し関心をもち地域の母子保健や周産期医療に貢献しようと意欲のある人。

令和5年度卒業の助産学生は6名全員が単位修得できており、卒業時に実施したディプロマ・ポリシー調査（資料2：DP到達度調査結果）では、全6項目において「かなり身についた」の自己評価が令和4年度を上回り、本学のディプロマ・ポリシーの到達度として良好な結果が示されたと考える。助産課程履修前のレディネス及び、選抜基準は妥当であると考え。この結果は、ディプロマ・ポリシーとアドミッション・ポリシーとの整合性が取れているものと考え、今年度以降も現行のアドミッション・ポリシーを継続していくことが妥当であると判断する。

## 2) 令和5年度入学者選抜方法

選考は2年次の後期末に行い、筆記試験(母性保健医療学演習、母性看護対象論)、個別(個人および集団)、2年次後期までの通算GPAを総合して審査している。集団面接では、テーマについてのグループディスカッションにより、論理的思考力、倫理感、状況把握力、リーダーシップ、メンバーシップ、表現力を総合的に評価している。出願条件は、2年次後期までの専門科目の必修科目の単位を全て修得していること、「助産学概論」の単位を修得していること、卒業後助産師としての就職を強く希望していること、保健師教育課程科目または養護教諭養成課程の履修者選考試験を志願しないことであり、これらの条件を全て満たす者である。平成27年度卒業生から令和4年度までの間、助産師教育課程の退学者はなかったが、令和5年度は、体調不良での継続困難から1名が退いている。しかしながら、助産師教育課程を修了した学生全員が助産師免許を取得できている。このことから、アドミッション・ポリシーに適った学生を適切に選抜できていると評価できる。

## 6. 教育課程及び教育方法

### 1) 教育目的

助産師教育課程の教育目的は、大学全体の理念および看護学部の教育理念をふまえ、「豊かな人間性と倫理観を有し、基本的な助産実践能力を備えた助産師を育成する」と設定し、6つのディプロマ・ポリシーを置いている。資料2に示すとおり、学生はすべてのディプロマ・ポリシーにおいて「かなり身についた」または「ある程度身についた」と評価していた。

ディプロマ・ポリシー1は、学生がこれからの自分自身の助産師キャリアをイメージして、それに向かってのアイデンティティ形成の到達状況を表すものであり、本学助産師教育において重要視しているものである。前年度は、57%が「かなり身についた」

た」のに対し、令和5年度は「かなり身についた」が67%、「ある程度身についた」が33%であった。

また、ディプロマ・ポリシー2は、対象の母子とその家族を尊重し、倫理的に接し、信頼関係を築くことについての到達状況を示すものである。前年度、57%が「かなり身についた」のに対し、令和5年度は「かなり身についた」が100%であった。これは、コロナが5類に移行して、臨地での実習時間や実習内容がコロナ前へと戻ったことが要因として考えられる。

ディプロマ・ポリシー3は、マタニティサイクルへの実践能力の到達を指し、「かなり身についた」が67%、「ある程度身についた」が33%で、前年度の「かなり身についた」57%を上回った。

ディプロマ・ポリシー4は、ウィメンズヘルス実践能力を指すものであるが、「かなり身についた」が50%、「ある程度身についた」が50%であり、前年度の「かなり身についた」43%を上回った。本学では継続事例1例を開業助産院で受けもたせていただき、それに伴い妊娠期からの産褥1か月までの切れ目ない子育て支援の実践を重要視している。産褥1か月以降の子育て支援については、地域で開催する健康教育への参加を促進し、実際に地域の方と関わることで子育てを体験的に学び、併せて知識と実践能力を身につけさせたいと考えている。

ディプロマ・ポリシー5は、助産師の専門性を認識し責任と役割を果たそうとする姿勢が身についたかどうかを問うたものであるが、「かなり身についた」が100%であり、前年度の57.0%を大幅に上回った。助産関連の講義において、開業助産所の院長をゲストスピーカーに迎え、助産師の職責や役割、助産管理、専門性について、臨床現場の実体験を交えながら教授いただいたり、大阪府助産師会の産前産後ケアセンターや大阪市地域子育て拠点事業の「おひさまサンサン広場」での見学実習をさせていただいたり、NPO 児童虐待防止全国ネットワークの「学生によるオレンジリボン運動」に参加するなどの講義・演習の工夫が、助産師の専門性を学び、自らの自覚を培う姿勢に好影響を与えていたと考えられる。

## 2) 教育課程（全体の状況を簡潔にまとめて記述してください。200字程度）

保健師助産師看護師養成所指定規則で定められている28単位はすべて助産専門科目で配置している。講義・演習・実習とも制約の多い学士課程の中で助産実践能力修得、質向上に向けた工夫として、教員間で頻回に授業内容の検討を行うこと、また、学会や全国助産師教育協議会などの情報提供を基に、最新の助産や母子保健に関わる情報を入手し、活用していることが挙げられる。今後も教員間の連携と討論で実践に繋がる教育内容となるように工夫していきたい。

## 3) 教育方法（全体の状況を簡潔にまとめて記述してください。200字程度）

例年7名の学生を定員としており、少人数授業や双方向的授業が行いやすい。妊娠期・産褥期の健康教育では、模擬患者とのロールプレイから保健指導の基盤となる知識と技術、保健指導の方法、コミュニケーション、接遇などを学ぶ。分娩期では事例を用いて助産診断と臨床推論およびロールプレイを経て実習へと繋げている。NCPR(A)の取得、開業助産師による母乳育児支援やフリースタイル出産、開業助産院の助産管理の講義を行っている。実習では直接介助平均9.0例、学内演習平均2.3事例と直接分娩介助数は前年度を上回った。令和5年度は、施設合同の実習指導者会は未開催のため、令和5年度の実習開始前の実習打ち合わせ会には総括資料を提示し、教員と指導者との連携等の確認を行った。

## 7. 成績評価及び課程の修了

### 1) 成績評価（全体の状況を簡潔にまとめて記述してください。200字程度）

成績評価の基準は学修要項に規定し、1年次入学オリエンテーションから学生に周知している。助産関連科目のシラバス作成時は、科目責任者を中心に、領域内教員間での検討時間を設けている。その上で単位認定基準と点数の構成要素・配分を明記し、助産師教育課程オリエンテーションや各科目の初講時に学生に周知している。成績判定は、母性看護学・助産学領域会議において試験の難易度や採点の適切性、成績判定の妥当性を審議し決定している。全科目で追再試験の機会を確保し、十分な学修時間を確保して試験に臨めるよう日程を配慮している。令和5年度の成績判定の状況は資料3の通りであった。

### 2) 課程の修了（全体の状況を簡潔にまとめて記述してください。200字程度）

卒業要件は看護基礎教育の大学卒業要件を満たし、その上で助産師教育課程で規定した28単位を修得することとしており、これは大学学則に定めている。その条件を満たした者を課程の修了者とし、助産師国家試験受験資格を与えている。令和5年度の課程修了者は6名で、助産師教育課程の選抜試験合格者全員7名のうち1名が体調不良によって履修の継続が不可能で助産師教育課程を退き、その結果6名が課程を修めた。看護師国家試験、助産師国家試験に6名全員が合格した。助産師教育課程のディプロマ・ポリシーの到達度調査結果（資料2）からは、現行の教育課程・方法が本学の助産師教育課程の目的・目標に適うものであると判断された。

## 8. 学費及び奨学金等の学生支援制度

### 1) 学費

年間159.6万円（助産教育課程は別途15万円の履修費が必要）

### 2) 奨学金

## &lt;給付&gt;

学内：学業成績優秀者奨学金 327,000円/年 受給者：1名

日本学生支援機構 25,600円/月 受給者：1名

## &lt;貸与&gt;

日本学生支援機構 1種 50,000円/月（無利子） 受給者：1名

54,000円/月（無利子） 受給者：1名

日本学生支援機構 2種 60,000円/月（有利子） 受給者：1名

80,000円/月（有利子） 受給者：1名

100,000円/月（有利子） 受給者：1名

120,000円/月（有利子） 受給者：3名

## 9. 卒業生の進路及び活動状況（令和6年度3月卒業生6名）

## 1) 助産師

病院 6名 診療所 0名 助産所 0名 その他 0名

## 2) 助産師以外

なし